

法匠会報

法政大学 工学部 建築学科 同窓会会報

第35号 2001年6月25日

発行所 〒184-8584
東京都小金井市梶野町3-7-2
振替口座 1-89264
TEL・FAX (042) 387-6385
法政大学工学部建築学科同窓会
発行人 服部睦郎
編集人 会報編集委員会

建築同窓会 新執行部決まる

新会長に服部睦郎君(1964年卒)

2期4年にわたり会長を務めた鬼木猛君に代わり、服部睦郎君が会長に選ばれた。鬼木君は建築同窓会50周年という節目を乗りきり、若返り、対話など新しい同窓会のイメージと路線づくりを強力に推進された。服部新会長はさらに21世紀にふさわしい同窓会のあり方を追及するという。ウォークラリー、法匠セミナー、法匠展などユニークな活動を引き継ぎ、さらに大きく発展させていただくよう期待したい。

法政大学工学部建築学科同窓会の新執行部は次の通り

会長 服部 睦郎(1964年・大江ゼミ)
副会長 広谷敬太郎(1963年・大江ゼミ)
石川弥栄子(1963年・大江ゼミ)
岡本 真(1970年・宮脇ゼミ)
佐藤 良一(1975年・川口ゼミ)
山本 壽夫(1978年・大江ゼミ)
森田 正人(1978年・川口ゼミ)
高村 雅彦(1988年・陣内ゼミ)

建築同窓会会長就任にあたって

明るく前向きに 前進しよう

服部 睦郎



同窓生の皆様におかれましては、益々、御健勝にてご活躍の事と存じます。この度、2期4年の長きにわたり名同窓会長として私たちをリ・ドし、又会の発展にご尽力された鬼木猛様の後任に推薦され、建築工学科同窓会の会長という大役をお引き受けする事になりました服部でございます。何分にも非力、浅学の私にとっては身に余る大役であり、大変緊張もし、不安にも思っておりますが、母校のため、同窓生諸兄姉のため、そして同窓会の発展のため、一生懸命努力する覚悟です。つきましては、同窓生皆さま、何卒絶大なるご協力ご支援心よりお願いする次第です。

さて最近の話題といえば「戦後日本の仕組みの制度疲労」「長引く不況」「景気低迷」「デフレスパイラルの恐怖」……であり、世の中お先真っ暗、日本崩壊の類の報道ばかりで、気持ちが暗くなります。これは、どうも負の部分のみに焦点を当て過度に悲観的になっている面があると思います。

そこで明るい部分の話題を少し書いてみます……。

1990年代は年平均1.4%GDPが増加(10年で450兆から500兆へ増加)、外貨準備高3500億ドル(42兆)で世界最大の純債権国。個人の金融資産は1400兆円(個人は法人に比べてバブルの影響が少ない、10年で50%増加)。

厚生年金の積み立て金180兆円、現在までも50年は大丈夫。失業率4.9%は過去最大だが好況のアメリカとの差はわずか(日本人が昔のように3Kの仕事をしとわなければ、殆どの失業者はいない)。

超低金利時代が続いているが、物価も著しく安定(最近のデフレ傾向は個人には良く企業に辛い。当たり前の事)。高級レストランもコンサ・トも豪華船も満員、一億円を超えるマンションも即日完売、海外旅行も年々増加(毎年、10人に一人は海外へ)。等々……

少しは元気になりますよね……。

建築学科同窓会も色々負の問題がありま

すが、正の財産も沢山あります。「全会員相互の連絡を密にした共同目的の事業と母校発展のために活躍する。」という会の主旨に則り、忠実に、明るく前向きに前進したいと思っております。改めて、同窓生の皆さまの一層のご支援とご協力を重ねてお願い申しあげ、私の就任挨拶とさせていただきます。

「新年会」盛況裏に

慣例の建築学科同窓会の新年会は、去る2月2日アルカディア市ヶ谷にて開催され、盛会のうちに無事終了しました。

今年は初企画として、建築学科の教室の情報や、同窓会の各イベントのスナップ写真・先生方やOBの作品や著書の展示・掲示をしました。この初企画が、参加された方々に好評でした。

例年通りの参加者が集まって楽しいひと時を過ごさせて頂きました。

参加いただいた先生方や、OBの諸先輩方には御礼申し上げます。

二次会にも多数の方々の参加があり、私自身もビックリしました。

実行委員長 市野彰俊(1969卒)

会費納入は自動払込みで

「法匠会報」は皆さまの納める会費で作られます。会費納入に御協力下さい。

同窓会費は年3,000円郵便振込みで納入いただいております。なお自動払込みの方法も設けておりますのでご利用下さい。

1:郵便貯金通帳のある方

郵便局窓口で「自動振込利用申込書」をお持ちの通帳の口座番号、住所、氏名をご記入捺印の上、窓口に出していただくだけで、簡単に手続きは済みます。

2:郵便貯金通帳のない方

郵便局の窓口で通帳をおつくりいただき、前

記1の手続きをしてください。

3:それ以外の方

会報と同封の払込取扱票(手数料なし)にてお願い致します。その他は郵便局にて振込用紙に下記の宛名と口座番号をご記入いただき、ご協力お願いいたします。

口座番号: 00110-5=89264

加入者名: 法政大学工学部同窓会

住所: 東京都小金井市梶野町3-7-2

同窓会事務局 電話 042-387-6385

第4回・法匠展・50

7月6日~10日

am10:00~pm8:00

武蔵野芸能劇場2階ホール

JR中央線三鷹駅北口1分

建築学科の先生方と同窓生のアート展です。油絵、水彩画、パステル、日本画、版画、写真、陶芸など、多彩な作品が一堂に会します。

どうぞ気軽にお立ち寄り下さい。

こんな機会に旧交を暖めたり、新しい出会いがあるのもいいものです。

人いろいろ

故・梅崎星果パース展
建築に完全燃焼した生涯

梅崎星果氏が
昨年4月12日永
眠され、1周忌
にあたる5月25
日～31日作品の
パース展が原宿
で開催された。



梅崎星果氏は昭和28年第1回生として卒業され、大江宏研究室（事務所）に入所。当時、大江研究室は法政大学の市ヶ谷キャンパスの53年館～58年館に至る設計監理を委嘱され、大学復興に全精力を注いでいた。特に氏は法政大学のシンボルともなっている正面入口の相貫体シェルを中心に構成される58年館の設計に中心的な役割を果たし、昼夜を問わず創作に没頭した。大江先生も「梅ちゃんはずごいよ！納得いくまで何日も徹夜で、ある朝など製図板に向かって目を開いたまま眠っていたよ」と語っておられた。



昭和47年に大江先生の弟さんの修さんの事務所を引き継ぎ、「大江アソシエイツ」として再スタートを切ることになるが、ここでの仕事が氏の後半生を特徴づける梅崎流数寄屋。住宅や料亭に新境地を開き、数々の名作を世に問うことになる。

事務所に泊まり込んで水を得た魚のように創作に没頭する日々は、一方で氏の身体を蝕む結果にもなった。しかし、好きな建築に持てる力を完全燃焼させた氏の生涯は素晴らしいものだったと思う。

梅崎先輩のご冥福を心からお祈りします。
金子泰三（1962年卒）

渡邊真理 + 木下庸子作品が
日本建築学会作品選奨に

建築学科教授の渡邊真理先生 + 木下庸子さんの設計した住宅NTが日本建築学会の作品選奨に選ばれました。応募総数211、作品選集2001掲載作品60作品から現地審査を経て選奨12作品を選定。作品は、仕事を持つカップルと2人の子供のための住まいだが、非核家族の性格を持っていることに着目し、コモン（オープンな共有空間）と最小限の可変サテライト（私室）パス（通路）で構成している。明るい空間、合理的で互いの気配が感じられる住まいである。

建築学会の「ヘルシーハウス」コンペに出口研究室と鹿島他案入選

建築学会のヘルシーハウスのコンペ / 室内化学物質空気汚染防止に配慮した住宅設計 / 戸建住宅部門に当校関係2作品。集合住宅部門のグループの一員として1作品が入選しています。

戸建住宅部門、出口清孝教授と院生（三田拓達・越沼直彦・金田正夫）案は佳作で、光触媒和紙や木炭などを使い汚染物質を抑制、太陽光発電による積極的な



熱交換換気システムを提案。鹿島雅彦（昭51卒、55院卒、武者研）・松原清美（旧姓：鈴木、昭51卒、篠原研）・瀧澤理・平久美子案/佳作。階段やエレベータを組込んだ4本のシャフトで建物を浮かせ、化学物質過敏症などの家族のために和室をクリーンルームとしているのが特徴。集合住宅部門佳作の清水建設グループ案に長谷川隆弘（92卒）君が入っている。（『建築雑誌』2月号より）

コンペ『自然の中の家』で院生入選

表記コンペで大学院2年の石原篤・大須洋・柚木吾郎君のグループが入選しました。

たるき

■今年の横浜は桜の下に、例年なら咲き終わっているはずの水仙がまだ咲いていた。桜は気温の変化を感じ

取って咲くが、水仙は地温の上昇で咲くらしい。どうも今年は例年より地温が低いようだ。

■八分咲きの桜と満開の水仙を見ながらワシントンDCで開催される「建築と子供たち」のワークショップに参加するため、日本を離れた。

■ホテルで持参したパソコンで書いた、催し物用の折り紙建築の図面を、会場の建築博物館にメールで送って印刷するつもりでいたら、博物館の加入しているプロバイダーが倒産してインターネットが使えない。思わぬところでアメリカのアキレス腱を見つけた気がした。

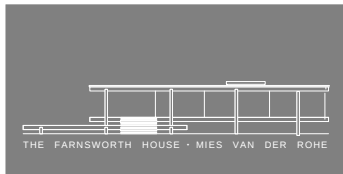
■「折り紙建築展」なる催し物の手伝いで「建築と子供たち」のメンバーとして、折り紙の街づくりのお手伝い。5歳から小学校低学年の親子づれに、用意した折り紙の建物や折板構造の建物、桜の木などの作り方を教える。言葉が通じなくても結構何とかなるもので、子供たちも皆のびのびとしていた。アメリカの子供を取り巻く環境の良さを実感した1日だった。

■メインイベントの段ボールのドームづくり、折り紙建築のデモンストレーション、伝統折り紙のデモンストレーション、折り紙建築制作指導など、桜祭りのイベントとも重なって、1日で2000人を超える来場者があり、ワークショップの会場は終始熱気に包まれていた。

■帰りに記念撮影のため立ち寄ったボトムマック河の三分咲きの桜の木の下にも満開の水仙が咲いていた。現地でも珍しいという。今年はどうも地球規模で地温が低かったらしい。（石）

編集委員会 岡本 真（1970年卒）
小川 格（1966年卒）
安藤照代（1967年卒）
永瀬克己（1968年卒）
石黒豊明（1972年卒）
安井太郎（1981年卒）

憧れだけでは終わらない



VectorWorks
Object-Based CAD for Professionals

それはCADを超え、そしてOSの枠を超える。

VectorWorksは、オブジェクトベースのCADエンジンを搭載。数多くのプラグインオブジェクトにより作図効率の向上とリンクを計りました。さらに、組織型設計に必要なネットワークコラボレーションが可能なワークグループ機能を実現。JW_CADデータ取込機能、DXF互換に対する機能強化、BMP / JPEG等のイメージファイルの取り込み / 取り出し等により、他で作成したデータの有効活用が可能です。VectorWorksは、Windows / Macintoshの枠を超え「デザイナーのためのトータルな設計環境」を実現しています。

標準価格 Macintosh/Windows 各198,000円(税別)
追加1ライセンス 各100,000円(税別)



エーアンドエー株式会社 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-3-15 営業部 TEL 03-3518-0131 <http://www.aanda.co.jp>

VectorWorksは米国 Nemetschek North America Inc.が開発したC.A.D.をエーアンドエー社が日本向けにローカライズ、カスタマイズし販売する製品で著作権は米国 Nemetschek North America Inc.及びエーアンドエー社が保有しています。その他記載された会社名及び製品名などは該当する各社の商標または登録商標です。製品の仕様は予告なく変更することがあります。

Windows® / Macintosh®

お元気ですか

バーバリー銀座店を設計した 濱田徹三君

銀座、資生堂の並び、博品館の隣にイギリスの高級ブランド、バーバリーの白いしやれたビルができたのをご存知ですか。これが70年卒の濱田君の作品だと聞いてびっくりした。こんな仕事を手掛ける機会はあるものではない。さっそく話を聞いてみた。やはり大変ないきさつがあったようだ。構造は69年卒の山辺豊彦君。濱田さんにとっては最高のパートナーだという山辺さんは「濱田さんは一見強引そうに見えるけど、大変繊細な気配りの人」だという。



資生堂の並びにできた銀座のバーバリーは濱田さんの作品だそうですね。

ウソから出たマコトみたいなもんです。なぜあんな大きな仕事をやることになったんですか。

日本代理店の三陽商会とお付き合いがあったんですが、バーバリーの本店を建てるという話を小耳にはさんだんで、冗談にぼくにやらせてくれないかなあ、なんて言ってるうちに、イギリスの社長のオーケーが貰えればいいよ、ということになって、すぐロンドンへ飛んだんですよ。

案を持って行ったんですか。

手ぶらで何も持たずに。アポイントもなしに。苦労してやっと会ってもらって、どんなものを作りたいのか見せるという言葉を引きだしたので、帰ってすぐ設計にかかりました。

ずいぶん強引ですね。

幸いオープンの予定まで時間がなかつ

たのでやるしかなかった、ということです。

1階の間口の3分の1は佃煮の老舗「貝新」の店ですね。

銀座ではあそこしか土地がなかったんです。しかし、「貝新」が食い込んでいてどうしてもまともな平面がとれない、「貝新」も絶対売らない、というのを、やっとうご理解をいただいて、いっしょに建てたというわけです。

まったく異質な店を破綻なくまとめましたね。

いろいろ苦労はしました。

ところで、濱田さんは、卒業して初めに勤めたのはどこですか。

ちょうど大阪万博のころですが、同級生と結婚しようとしたのですが、親が仕事もないのに、と猛反対。そこで、渋谷の駅を降りて電話帳を繰って近そうな設計事務所を探したんです。それが竹山実さんだったんです。とりあえずアルバイトで使ってもらったんですが、すぐに「もうやめろ」といわれてしまったんです。どうしたんですか。

私は図面が全然描けなかったんです。そこで、みんなが帰ったあと隠れて事務所の図面を朝までトレースしました。毎日毎日徹夜の連続でした。これを半年続けて、事務所の図面を全部コピーして、認めてもらえました。

その頃竹山さんは、新宿の「一番館」をはじめ話題作を連発して世界の注目を集めていましたよね。

そうです。そのほとんどを私が担当しました。私が入った時には、それまでの

略歴

1945年 山口県宇部市生まれ
1970年 法政大学工学部建築学科卒
1969～78年 竹山実建築総合研究所
1978年 濱田徹三+ストゥディオ・パツフィ開設
1984年 ストゥディオ・パツフィ設立

主な作品

松任谷邸、AXISビル、西洋環境開発八ヶ岳山荘、広尾プラザ、三陽商会、湘南エスパス 他



「バーバリー銀座店」は銀座の新しいシンボル

所員がみんな辞めてしまったからなんです。苦小牧のホテル、ペプシの工場など皆さん印象にあると思います。

竹山さんの事務所にはどのぐらいの期間いたんですか。

10年ほどです。最後が渋谷の109です。デザインから、テナントのまとめまでやりました。

やめたきっかけは？

もういいかなという気持ちのところへ偶然歌手のユーミンの住宅をやることになったんです。ユーミンがぼくの独立の引き金を引いたというわけです。その後彼女の事務所、別荘など次々にやらせてもらいました。六本木のAXISはそのころ先輩の辻健次郎(67卒)さんの手伝いでやらせてもらったものです。

竹山さんから学んだものはなんですか。

全部学びました。竹山さんは絶対に逃げない。騙さない、ウソを言わない。線一本の意味をつきつめます。苦労はしましたが、学んだものは大きいです。

濱田さんは自分の事務所を始めて何年になるんですか？

約22年ですね。

今も同級生の奥さん福井百合(69卒)さんと一緒に設計しているんですか。

彼女は初め椎名政夫さんの事務所に勤めたんです。今は私の事務所の一歩有能なスタッフ、いやボスですよ。

左上 松任谷邸
左下 吉原邸・下河辺邸
下 マイカ音楽研究所



楽しかったヨ ウォークラリー

新入生170名、卒業生50名が参加。 7コース、50チームで東京を歩く。

去る6月2日恒例の新入生歓迎ウォークラリーが行われました。薄曇りの最適の条件の中、170名の1年生が、50名のOB+先生の引率のもと7つのコースをたどって約4時間のウォークを楽しみ、市ヶ谷校舎で懇親会が行われました。委員長の加賀谷幸規君始め実行委員の方ご苦労様でした。卒業生の感想は昨年の経験に基づくもの。1年生の感想は今年のもです。

街でイメージ遊びを楽しむ

加賀谷幸規（1977年卒）

2年前に誘われた時、以前から気になっていたこともあり、早速下調べのつもりで、東京中を自転車に乗り駆け巡った。

結果、中心部はかなり小さく感じたこと、つまり歩くスケールでできていること、平坦な面が少ないことなどを改めて体験した。本の情報を、身体を通じて追体験した結果、私にも、街の骨格のようなものがイメージできて少し興奮したことを覚えている。

私にとっての第1回目のウォークラリーは、この興奮をそのまま新入生に伝えるべく、古地図などを用意し臨むことになった。しかし、全く受けなかった。

そこで昨年は、特別な用意をせず、海から街を見つづ浅草に至るコースを取った。最後は温泉にでもつかり、快樂と建築について語り合えないものかと考えたが、時間と女子に配慮し、温泉の方は残念ながらあらずとした。



自分の楽しみで参加

後藤真弓（1971年卒）

2回参加しましたが、東京という町はのんびり歩くとどんな観光地にも負けないおもしろさがあるような気がします。人の住む町としての気配や、路地のたたずまい、無機質なビルの連続風景もとても新鮮に感じます。もっとも学生達はまだこんな気持ちを味わう年齢ではないでしょうけど。私は設備設計が専門なので気の利いたガイドは出来なくて悪いけど、自分の楽しみで参加してもいいのならOBにとってもなかなかのイベントだと思っています。



コンベックス持参で

永瀬克己（1968年卒）

昨年は歩きながら「これ軽さがあって上がり易い階段だね」、「これ座り易い」とコンベックスをあてメモる学生たちがいた。建築学科1年に入ってくると、いきなり実測を行う。これまでの受験勉強の中では、建築に必要なスケール感覚など身に付ける暇などなかったからだ。建築に不可欠な言語である図面を学ぶにもスケールは基本的で大事な要素。そこで最も身近な自分の部屋を家具やドア、枠、ノブまで含めて測りまくり図面化。測ることを習慣化、身体化するように設計製図ではここから始めている。そんなことを常々言っているが、どこまでやれるかわからぬが続けてほしいと願っている。

「先輩、またありました！」

小川 格（1964年卒）

私は参加5年目、このところ上野にこだわっている。なぜなら、コルビュジエから始めることができるから。目の前に前川があり、御茶ノ水には吉阪も磯崎もある。なんといっても建築を好きになってもらわなくては話にならない。

ガイドブックの解説をコピーしておいて、建物の前で、代り番こに読んでもらう。最後にはなんとなく分かった気になっているみたいだ。

でも、あとで感想を聞くと、みんな文化学院が一番良かったという。実は私もそう思っている。こんな感じを若い人と共有できるのがうれしい。

外壁に触って石の違いを教えていたら、最後には学生がとんできて、「先輩、またインド砂岩がありました！」学生も楽しそうだった。

建築にロマンを見てほしい

保倉亮一（90年卒業・宮宇地ゼミ）

2年前に参加した。OB2人と新入生3人で御茶ノ水～千駄木の路地界隈を2、3時間歩いた。Century Towerなど馴染み深い建築もこの街も、何も知らないだろう新入生達に通訳しながら廻ると、案の定、知っていたようで知らなかった事や、同じモノでも改めて別の感情に出会うこともあった。

建築を通して、歴史や生活のソフトからデザインや工法のハードまで、限りある知識を断続的に話し続けるOBとそれを寡黙に聞き留め、メモを取るマトモな新入生達。

彼等にとって建築のどこに、その魅力やロマンを見出していくのだろうか・・・

日頃、実務に頭を抱えるようになり、このように建築を見ると作者の努力や苦労、理由なんかが見えてくる。そんな探偵行為はなかなか楽しめるのだが、先の問いは、むしろ、今の私達にも問われている事なのかもしれないと思う。



1年生の感想

大塚正紀（高田馬場）一番印象に残っているのは「東京カテドラル聖マリア教会」です。初めて教会の中に入ったのですが、本当に鳥肌がたつくらい感動しました。

高橋洋平（東京）一番のお気に入りは大江戸線の飯田橋駅でした。こんなお気に入りの場所を探してもっと増やしていこうと思います。

小林貴樹（代官山）近代建築に興味がある僕にとって、デザインされた町並み、打ちっぱなしコンクリートの住宅などを見学でき、とても楽しい休日を過ごすことができました。

齋藤なつみ（代官山）私の住んでいるところとは全く異なる所で、こんなところに住みたい！と幾度も思いました。

塩川哲也（表参道）先輩方の本当に豊富な知識に感動し、自分はもっと勉強しなければならないんだと、すごくいい刺激を受けました。

中村令生（高田馬場）1番印象に残ったのは「東京カテドラル」でした。あの曲線は、とても美しく、今まで見たことのないすばらしいものでした。HPシェル構造という構造でないと建てられないのだそうです。あらためて、設計と構造は一心同体なんだ、と思いました。

佐野翠（東京）稲田先生にお話を聞きながら東京を歩くにつれて、なんだか建物博物館に来ているような気持ちになりました。



思わぬ発見を楽しむ

猪野 忍（1970年院卒）

新人生歓迎会「建築ウォークラリー」は、田園風景の広がる町田キャンパスで建築の勉強を始めたばかりの学生諸君に「都市東京」の状況、たたずまいを少しでも身体で実感してもらおうということであった。都心に足を踏み入れたことのない若者も多い筈だし、OB諸氏にとっても久々の建築を見ながらの街歩きということもあらうと考え、実行委員を引き受けた私も早速、自転車で道筋の確認に出掛けたり、細い路地を歩き、思わぬ発見をしながらのルートマップづくりであった。

そして、初参加以来10年、彼等とのこの時間を大切に楽しみにしている。建築、都市をダイナミックに展開させて行くには空間体験が欠かせないことを伝えるのは我々の役目と思えるし、共に身体を動かしながら過ごすウォークラリーの間の数時間は、未来を動かして行くべき世代の期待に満ちた明るいまなざしにめぐりあえる大きなチャンスでもあるのだ。

興味と好奇心が目覚める

高橋 淳（1991年卒）

ここ数年ウォークラリーに参加しています。最初は後輩のためになれど、実務経験のある先輩面をしながら、はとパスのガイドのように説明したりしていましたが、最近は黄門様の気分になれます。

学生と一緒にいると、社会の厳しい雨風に晒されて身に付けてしまった錆が剥ぎ取られ、素直に建築や都市に向かい合うことができます。どこか奥の方に押し込んでいた純粋な興味と好奇心が目覚まして、触ってはいけない物、入ってはいけない所はないと思えます。助さん格さん役の学生が印籠の如し学生証という心強いフリーパスをもっているのだから。

平尾純一（日暮里）行く前までは、授業や課題についていけず、学校がいやになっていました。しかし、今回参加したことで、建築のおもしろさを改めて認識し、新たな目標を見つけれられたような気がします。

奈良本晋也（千駄ヶ谷）これからは、現代建築物巡りを趣味にしようと思います。

山下泰弘（東京）今回1番印象強かったのは「都営大江戸線飯田橋駅」でした。近未来的な照明や通路がとても印象的でした。

松村明彦（千駄ヶ谷）特に印象に残ったのは「迎賓館」で、とても日本のなかなとは思えないような造りでした。

ああ...待ち遠しいなァ

宮本正行（1973年卒）

まず、実行委員長に「大変ごくろうさま」と言いたい。私も4年前に委員長をさせていただいたが、4月初めのコース決定から始まり、法匠会報掲載、案内配布、マップ資料作り、……、と当日の5月末頃までスケジュールに追われ、関係者の方々を大変はらはらさせてしまった。私の頃は連絡がつき易い等の理由で、集合場所を3か所ぐらいに絞ったが、今年は何と7か所に増えている。年々増えてきたようである。これは実行委員側の労力が増えたことになるが、参加者は選択の幅が増え、楽しみも一段と多くなった。さて、今年はあの建築や町並みを見て、どんなことを学生と話そうか……。早く来ないかと待ち遠しいくらいである。



若者の熱気に触れながら

富田悦子（1971年卒）

宮脇ゼミ同期の小島君、清瀬君に誘われて、はじめて歩いたのは98年の代官山コースでした。澁谷に集合し代官山にでて、「ヒルサイドテラス」をかわきりに「東京キリスト教会」まで、「松濤美術館」等を途中見ながら旧山手通りから山手通り沿いに歩きました。このときは、山手通りが高台沿いに通っているのを足で感じたように思います。

日頃、街を歩くといっても、これ程長く、これ程のんびりと歩く機会はなかなかありません。それに若い人達感覚にふれながら過ごすという楽しさもあります。以後続けて参加しています。

そして本校へたどり着いて、若者の熱気をまわりから感じてのビールの味は、また格別です。

幾見祥久（千駄ヶ谷）このような貴重な体験はもっとあるべきだし、なければ本当の「建築」というものはわからないような気がします。

山辺恵一郎（日暮里）日暮里から、谷根千（谷中・根津・千駄木）と呼ばれる地帯を歩きましたが、そこには古きよき時代の東京が残っていて、ビル街しかない自分には「新鮮」でした。この経験は将来の自分にとってよき教養になることを確信しています。

松崎夏季（代官山）代官山には、本に載っているような有名な建築家が設計した建築がごろごろあって、驚きました。建物の細部まで、建築した人間のこだわりが見え、細かいところまで観察することの大切さを実感しました。

発見と刺激

白田隆雄（1971年卒）

一昨年より、1回目は表参道、2回目は代官山コースに参加しました。

集合場所に人数が集まり次第出発するわけです。

表参道周辺は、岡本太郡の家が美術館になっていたり、山田守先生の家は喫茶店と貸ギャラリーなどがあり、私にとっても新しい発見になりました。途中、お茶を飲んだり、時間の都合で電車を乗り継いで4時間程の行程で法政大学市ヶ谷校舎に到着してゴールです。

2階の教職員食堂の懇親会では先生方と久しぶりお会いしたり、偶然に先輩、同期生に会ったり、ビールを飲みながら各コースの報告があり楽しい雰囲気会の会です。

新人生は、大学生になって2～3ヶ月で建築の勉強を始めたばかりで、先生、大学院生、卒業生が引率して一緒に東京の街を歩いて建築に触れることは、新人生にとっても良い刺激になると思います。



建築って、けっこう感動

小野寺ひろみ（1984院卒）

さる知人いわく「以前参加したけど学生から何も質問がなくて、つまらなかった」ちょっと待て。1年生の今ごろ自分はどうだった？ 建築というものの、まだよく分からないことばかり。授業で与えられるものは知らないことばかり。高校までは自分で聞くことがなかったし...質問なんて、できなくて当然。でも、知識欲ないわけじゃないじゃん。

さて、皆さん。学生にはこちらから話しかけよう。実物の説明なら熱心に聞いてくれる。ご自分の経験や〇〇先生の裏話も、ついでに。学生には、部活の話など質問してみると、話してくれる。楽しく、有意義に、がんばってね。先輩！

松波勝也（上野）東京国立博物館では「法隆寺宝物館」を設計した谷口先生という有名な先生に本当にたまたまお会いすることができ、みなさん興奮していました。

大越俊輔（東京）当日はまさにウキウキウォッチングって感じで、写真をとにかく撮りまくりました。東京国際フォーラムで24枚撮りフィルム1本使いきってしまうほど。そのあと銀座をうろうろして、結局取った写真の枚数は72枚近くになってました。

大森彩子（日暮里）一番初めに行った「朝倉彫塑館」の庭に感動しました。建物自体もすばらしかったんですが、それ以上に、夏でも涼しそうな木と石と池の庭が気に入りました。

CADを使って設計環境が激変



川鍋明弘 (1979年卒)



昨年10月に商店建築社から、Vector WorksというCADソフトとRenderWorksというレンダリングソフトを使って、住宅1軒の設計から完成までを三次元画像で表現した『住宅設計in3D / CG』という本を出した。現在出版されている3D / CGの解説書は作品集的なものか、単にマニュアルを書き直しただけのようなものが多い。設計者としてのユーザーの観点が抜け落ちている。

実際の設計、管理実務の流れのなかでは、もっと様々な使い方があつた。ユーザーによるソフトの解説書としてベルエポックになったとかってに自画自賛している。実際に設計に携わっている皆さんにぜひ読んでいただきたい。建築設計にどのくらいコンピューター及びインターネットを利用するかということに関しては、是も非も含め様々

な意見がある。拙著でもインターネットが現場監理に役にたったことに少し触れているが、情報革命により設計環境にも大きな変化が起きていると思う。今後さらに通信線の高速化が進むので、インターネットを使ったテレビ電話もそう遠い話ではなさそうだ。図面と相手の顔を見ながらの会話となれば、実際に会って会議を進めている状況に限りなく近づく。本当に世界がちぎまっているように感じる。現在、2冊目の解説書を準備中で、3D / CGに加えアニメーションに重点をおいた内容になる。動きが加わることで、さらに臨場感が増すことになるので、様々な設計段階での新たな提案ができるのではないかなと思う。本職の合間に時間を見つけて書かなくてはならないので、早くても出版は年末から来年になりそうだ。乞うご期待。

私の逸品

フォールディングバイク

近藤一彦 (1979年卒)



そろそろ50の声も聞かれる年となり、体形も体重もすっかり“それなり”になってしまった。独立して設計事務所を開業し今年で10年。良かったのは初めの2~3年でその後はご存知の通り平成大不況、青息吐息にて今がある。

趣味のオートバイもとうの昔に廃車処分、酒とカラオケの日々を送る中、ふと目に止まったのが自転車雑誌。ドイツ製アルミ折畳み自転車。折畳みに要する時間約1分、軽量、前後サスペンション付、7段ギア、おまけに形が良い。そしてお値段は89,000円。おー！これこそあの懐かしい初恋の味！目から鱗の一品。理性も知性も一瞬にして消え、本能のままに注文した。

届いた自転車は誠にユニークな機構を持ち、工具を一切使用せずにコンパクトに折畳める。しかも、走行性能は下手なサイクリング車より上ときている。これはいける！そこで、早速ファッションスタイルを考える。レーサースタイルはどうも気後れする。一日走った後ふらっと居酒屋に入っても違和感無く、電車の中でもそんなに目立たない。そして何よりも動き易く、汗をかくてもすぐ乾く等々。色々悩んだが、結

局、登山系、通勤スタイルと相成った。

さて、準備が整った

ら行動あるのみ。まずは近場の寄居辺りまで適当に走り、帰路は八高線にてビールを飲みながらのんびりとした車窓に酔いしれてみた。ところが、これが誠に心地よいのだ。美味しい所だけ走り、嫌になったら電車に乗り込む。軟弱でいい加減な気持ちで旅に出て、帰りは酒でも飲んでいれば酔った頃には自宅近くの駅に着く。この心地よさは何とも代え難いもので、すっかり嵌りきってしまった。

昨年は京都市内散策、尾道~今治の「しまなみ海道」走破と徐々にエスカレートしてきた。今年は柳田國男の遠野や宮沢賢治の花巻辺りをふらふらしてみたい。どうせ不景気、仕事が暇になったらお金のかからない自転車を抱えて電車に乗り込み、一人でふらふらと旅をすればよい。そのうち景気も良くなるだろう。

身近かな本棚



「中国江南の都市とくらし」
高村雅彦著(92年修了)
A5判 268頁
山川出版社発行
5,000円

中国・長江南岸には大小無数の湖沼が点在しているが、ここに無数の運河を通して蘇州をはじめ多くの水の都市が発達した。これらの都市の成立過程や構造、その特色を長年の調査に基づいて分析。さらに水郷都市の住宅をはじめ市場や茶館、戯場など特色ある文化拠点まで分析・紹介し、その保存問題まで言及している。



「イタリア都市のパロック感覚」
陣内秀信著
B5判 128頁
小学館発行
1,900円

「パロック感覚」をキーワードにイタリア全土から6つの都市をとりあげ、その魅力を豊富な写真とともに解説する。ローマ、トリノ、ヴェネチア、レッチェ、ナポリ、シチリアとあまり目にしない珍しい都市が紹介されているところが特徴かもしれない。パロックとは...等の議論より感覚的にパロック的な空間や造形を楽しもう。



「地球環境と東京—歴史の都市の生態学的再生をめざして」
河原一郎著
A5判 284頁
筑摩書房
2800円

河原先生が単に造形的な建築家にとどまらず都市にも深い関心をもって調査研究に取り組んでこられたことは、卒業生ならよくご存知でしょう。本書は先生の都市をめぐる思索の集大成。

西洋中心主義・列島改造への批判、首都移転はなぜいけないかなど現代日本の都市批判をはじめ、水系別都市、生態学的都市美など今後の日本の都市のあるべき姿を模索している。

「私の逸品」「マイホームページ」

これはという逸品をお持ちの方、あるいは逸品を持っている人をご存知の方、是非情報をお教え下さい。「私の逸品」コーナーでご紹介します。自分でホームページをつかった人、ご紹介しません。あなたのホームページを教えてください。
toy-ishiguro@col.hi-ho.ne.jp 石黒

21世紀へさらなる飛躍を！

第10期

建築同窓会 第10期同期会一同

法匠女性ネットワーク

第6回「総会」が開催されましたパネルディスカッションも活発に.....

梅雨の晴れ間の6月9日(土)法政大学市ヶ谷校舎ボウソナードタワー26Fに於いて「法匠女性ネットワーク」第6回総会が開催されました。'01年度代表に石川弥栄子さん('63年卒)が引き続き選出され、承認されました。また'00年度決算・'01年度予算案も審議され、承認されました。

今回のパネルディスカッションは『チャレンジ! その日がいつか来るように』のテーマで、自らを「成功を目指す挑戦者」としてがんばっている卒業して間もない鈴木久美さん('96年卒)現場監督、田代紗織さん('00年卒)建設会社設計部、里花さん('00年卒)システムエンジニアの3人にお話を伺いました。それぞれのフィールドで奮闘しながらもエネルギー溢れるメッセ



ージは、世代を超えて大変興味深いところであり、かつての自分とだぶって見えた人もいたことでしょう。

21世紀最初の総会ということでもあり、眺望の楽しめる空間でパネラーを囲み参加者と語り合い、楽しいひとときを過ごしました。 実行委員長 梅松 禮子

2001年 前期活動予定

新年会 2月21日(火)法政大学市ヶ谷校舎ボウソナードタワー
見学会 3月24日(土)武蔵野市特別養護老人ホーム「親の家」(設計:象設計集団)
新入生歓迎ウォークラリー参加 6月2日(土)
第6回総会 6月9日(土)「法匠女性ネットワーク」総会開催

シリーズ・フィンランド通信(その1)

ヘルシンキのまちづくり (環境教育)

吉崎 恵子(1972年卒)

私はフィンランドの首都ヘルシンキの都市計画局で働いています。フィンランドでは改正建築法が2000年元旦に発効されて、計画への住民参加が今まで以上に強調されるようになりました。住民参加はいろいろな形で行われてきているのですが、ここでは昨年私が行ってきた小学生のための人工環境教育プロジェクトを紹介します。子供のためのプロジェクトは、本来の住民参加の計画とは言えないかもしれませんが、将来の住民参加に直接つながるものですし、また、市民の都市への認識を高めるための一番の近道だと思います。

フィンランドでは環境教育の中でも自然環境については、すでに教科書などでかなり触れているのですが、建物、都市、ランドスケープなどの人工環境については、まだまだ少ないのが現状です。このパイロット・プロジェクトを仕組んだもう一つの理由は、現在無に等しい先生用の人口環境の教育読本を作りたいと考えたからでもあります。

この人工環境教育の企画が、都市計画局で採用になったのは1年ほど前のことです。そこで、企画プログラムにそって、協賛団体と応援部局からなる支援チームを立ち上



げました。そして、人工環境を教えるための二人のインストラクターを採用しました。一人は人工環境教育の経験を持つ建築家の女性です。

もう一人は彼女の助手になる建築学科の学生です。この時点で都合の良い事に、社会福祉局の方で使っていた楽しくペイントされたコンテナが空いたのです。このコンテナを借りて、内部を設計事務所のように模様替えし、設計道具や模型の材料などを積み込みました。

今までフィンランドの各地でバラバラに行われてきた人工環境教育の例、つまり生徒達が作った作品の写真を集め展示しました。これは生徒達が思っている事を表現するにはどうすればよいのか、具体的に見てもらうためのものです。これらを積んだコンテナをプロジェクトのシンボルにして、学校に送り込んだのです。

コンテナや展示の制作と同時に、子供たちに教える事柄や手順、そして資料などの準備を進行させていきました。支援チームには、建築家協会や大学の代表にも入って

—女性ネットワーク—

新年会開催

去る2001年2月21日(火)「女性ネットワーク」の新年会が法大市ヶ谷校舎ボウソナードタワーにて開催されました。眼下に広がる靖国の杜、千鳥が淵、東京タワー等を望みながら近況報告がなされました。先人方の活躍によってかなり道が開かれましたが、まだまだ女性にとってさまざまな所で壁に当たると言う現実もあり、「女性パワーの集合」が求められていくことと思います。



見学会

桜の開花がみられた3月24日(土)「女性ネットワーク」の有志でJR三鷹駅の程近くに竣工した、特別養護老人ホーム「親の家」(設計:象設計集団)を見学しました。

「女性ネットワーク」は毎月一回、定例会又は勉強会をしています。皆様のご参加をお待ちしています。

もらい意見を聞きました。この企画を実行させる小学校は支援チームの意見を入れて、環境教育に興味を持ち、異なった環境下にある5校を選びました。

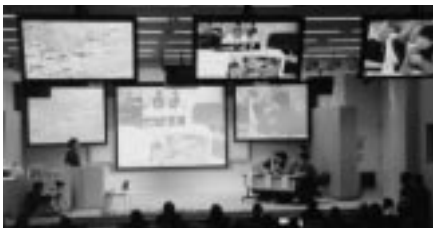
期間は新学期の9月から12月までの3ヶ月間とし、1校にまるまる2週間が使えるようにしました。参加したクラスは、学校によって異なりますが、2年生から5年生です。多い学校では5~6クラス、少ないところでは2クラスでしたので、かなり充実した授業ができました。

学校ごとにそれぞれテーマを設定しました。郊外の古い多層階住宅地にある学校では地区の改善。新しい住宅地のコンベによって作られた学校では近代建築。都心のユーゲントスタイルの町並みにある学校ではロマン主義。そして、現在校庭の改善にせまられている2つの学校では校庭の設計です。子供達が自己のアイデンティティを強化することができるように、自分達の住んでいる場所を理解し、愛情を持って地域に接する事ができるようにと考えてのテーマ選択もあります。第1週目のカリキュラムは基本的にはどの学校も同じです。人工環境とは何か。空間やスケール。そしてそれらに注意をむける事。気がつく事。良い所や悪い所を認識する事を教えます。学校によっては、生徒の意識が高く作業手順も慣れています。そうではない学校もあります。ですから、どの様にやるかはそれぞれ違います。(次号につづく)

卒業設計公開講評会2000

公開講評会は、2001年2月3日(土)1時より、小金井キャンパス西館のマルチメディアホールにおいて開催されました。学会の機関誌、日経Aなどにニュースが掲載され、他大学や設計事務所からの聴講者もあり、広い会場が通路まで一杯。講評・審査は建築学科教員、特別審査員として現在活躍している若手建築家の西沢立衛氏、第1回講評会のトム・ヘネガン氏、そして建築評論の五十嵐太郎氏の3人を招いています。講評の対象は、146人の卒業設計のなかから選ばれた12作品で、じっくりと講評できるよう昨年度よりさらに作品をしばっています。

発表者は、短時間の中で設計意図を適切に伝えねばならず、図面と模型を運びこみ、サウンド効果を添えたCGアニメーションも。後に続く学生には、講評を聞きさまざまな意味で強い刺激になったことでしょう。



卒計レセプション

講評会の後、学生ラウンジに場所を移し、レセプション開催。先生方、同窓、他大学を含む学年をこえた学生が集まりました。鬼木建築同窓会長による乾杯の音頭で和やかな懇談が始まり、会の途中で受賞作品が発表されました。授賞者は、次の学生です。

■トム・ヘネガン賞：大橋一隆、■西沢立衛賞：松尾智恵、■五十嵐太郎賞：真板暁子、■卒業設計賞：松尾智恵、真板暁子、松浦弘樹、大橋一隆、木村祐章、■模型賞：遠藤 順

今回の講評会も、昨年と同様に企画・運営に大学院生が積極的に参加。会は同窓会や協賛企業などによって支えられています。

学外卒業設計展等 法大代表決まる

卒業設計審査と卒業設計公開講評会を経て、次の学生が学外で行われる各種展覧会や出版物掲載の法政大学代表に決まりました。

■日本建築学会：松浦弘樹 ■近代建築社：松尾智恵 ■JIA：真板暁子、木村祐章 ■レモン画翠展：落合正一 ■レモン画翠「CAD展」：大橋一隆。

HOSEI STUDIO WORKS

第1号/2001/発刊される

卒業設計はこれまで卒業論文とともに1冊の概要集『建築研究』として年度末に発行。今年度から2分冊に。論文関係は便覧的扱い



で記録性のあるものに。設計関係では、編集内容を大きく変え、サイズもB5からA4に。この原動力となったのが修士1年の学生達。記録からコンピュータを駆使した編集ま

で、記念すべき創刊号にしようと自主的な行動の成果が表れています。受験予定の高校生からも好評。

初の学外卒業設計展JIAで

初の卒業設計学外展がJIA（日本建築家協会）ギャラリーで3/30～4/8の期間開催されました。展示作品は公開講評会発表作品を中心に、学外展を希望する学生から選択された力作16点。ギャラリーの壁面と展示床を最大限使いパネルと大きく緻密な模型が光っていました。オープニングは3/30（金）の夕、同ギャラリーで開かれ、作品を肴に学生と先生、OB他が熱く語り合うことができました。

建築学科学位授与式晴れやかに
そして熱き謝恩会が銀座で...

2000年度建築学科卒業生は、学士148名、大学院工学研究科は修士50名、博士1名、計199名が以上の学位を。卒業・修了おめでとう。卒業式は日本武道館、学位記交付は小金井キャンパスで。学位記の交付は、建築学科主任の渡邊真理教授、大学院は大学院主任の大江新教授から一人づつ手渡されました。工学部同窓会からは、成績優秀者として褒賞が次の2名に与えられ、鬼木建築同窓会長より手渡されました。

松浦弘樹君（渡邊） 坂本一平君（川口）

同日7時30分より、卒業生主催（幹事—渡邊ゼミ）ピッツェリア・マレンマ銀座においてお世話になった先生方・同窓会役員を招いて謝恩会開催。先生方と同窓会長からお祝と激励の言葉、学生からは先生評と大声援により会場が沸き返り、熱い熱い卒業謝恩の会となりました。

2001年度 春
建築学科・大学院新入生入学

4月3日（月）日本武道館において2001年度の入学式が行われました。今年は桜の開花が早く満開の桜に祝福されて建築学科177名、大学院（建築）に修士58名、博士1名、計236名の新入生が入学しました。入学おめでとう。学部1年生は同窓生とともにウォークラリーを楽しみました。

新任教員紹介

■測量学、測量実習（3～4年次）の非常勤講師として川口 剛氏（株式会社パスコ・情報工学部門技術士/法政土木卒）が担当。

きのくにデザインコンペ

法政の大学院生が上位を占める

和歌山県の紀の国・木の家推進協議会では、木のもつあたたかさなどを生かした木の住まいについて180㎡を上限としたアイデアを「きのくにデザインコンペ」として募集しました。応募は全国から156点。その結果、法政大学大学院生が上位を占めました。最優秀賞は潮上大輔君（陣内研M2）の「赤松ハウス」。

斜面に建つ住まいは、美しい赤松林へのダメージを最小限に抑えて建ち上がり、そこにさまざまなパラメーターを付加することによって環境と行為による状態の1断面をつくっている。地形や雨水の流れ、人間行

動や生活を分析した空間をつくっている。優秀賞は「ルーバー構造の家」で、秋本隆史、小林雅裕、松浦弘樹、大橋一隆君（渡邊研M1）が獲得している。

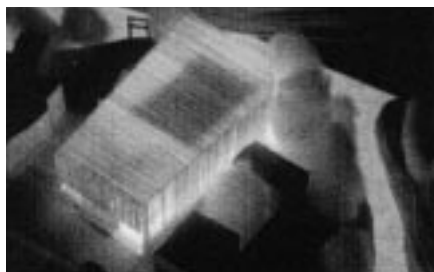


最優秀賞 / 潮上大輔君「赤松ハウス」

「群馬県中里村新庁舎プロポーザル」
大江研究室 佳作入選

群馬県中里村新庁舎プロポーザルで、大江新教授と大江研究室の院生達7人と作った案が佳作12点に入りました。（応募総数346点）

ヒアリングに進んだ入賞者は妹島和世事務所、（有）ナスカなど5点です。案は木製



ルーバーに外部が包まれながらも、内部の入れ子構造の狭間に自由な空間をつくり出しているもの。

スガツネ学生デザイン賞に院生が審査員賞

多様化する生活空間の中で建築金物や家具金物の想像力を育むためにスガツネ工房21が企画したもの。タナカノリユキ賞に中尾憲明君（陣内M2）、亀原崇司君（安藤M2）、浦俊弥君（工学院）のグループ案が決まりました。題名「Self Electro Luminescence Door」。

RDAF（デンマーク王立アカデミー）と
イベント開催

デンマーク王立アカデミーの教員と学生が来日（4/18～4/24/東京）、法政大学建築学科との間で相互交換レクチャー、そしてウォークラリー—東京は法政大学建築学科の大学院生を中心に学生達が案内役として積極的にサポート。

夏休みに学ぶ「建築実務実習」希望者多数
同窓生の御協力を!!

大学は8月1日から9月16日まで夏季休業、休みも有意義にと「建築実務実習」を望む学生（3年）が急増。希望登録者は64名/5/29付。同窓生の協力なくしては多くの学生の希望に応えることはできません。実務を体験させて下さる方、御一報を。

（FAX 042-387-6125 永瀬宛）

人工衛星（遠隔講義システム）による.....

「建築設計製図等総合講評会」

7月7日（土）に小金井で開催予定